

God With Us

Part 5: Soul Song

Job - Psalms

Message 6— Songs of Confession

Psalm 32

May 21st, 2017

神は我らと共に
パート5：魂の詩
ヨブ - 詩篇

第6メッセージ-悔い改めの詩
詩篇32篇

はじめに

詩篇は古代イスラエル人の詩集である。150篇を超える個人的、または公的賛美のための詩によって構成されている。それらは神学的教えではなく、人々の心の叫びである。詩篇は聖書の中で最も感情的な部分である。人生の問題について、神と格闘している実在した人々の声である。私たちがいかなる問題に直面しても、神に正直に向き合う方法を示してくれている。悲しいときは嘆き、ブルースを歌いたくなる気分になる。感謝の気持ちを捧げるために感謝の歌がある。心配事があり、神への信仰を強める必要があるときのために信頼の歌がある。神に畏敬の念を表すために賛美の歌がある。あらゆる季節のために歌がある・・・たとえ失敗し、混乱状態に陥ってしまった時でさえも、それに相応しい悔い改めの歌がある。私たちはしょっちゅう失敗するので、頻繁に悔い改めの歌が必要である。悔い改めの歌は、神の軌道から外れてしまったとき、そこに引き返すために役立つ。悔い改めの歌は次の8篇である：6、25、32、38、51、102、130、143篇。

悔い改めの詩篇の重要性を理解するためには、まず、罪の意味を理解する必要がある。使徒パウロは、次のように罪の定義を記している：

すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており、（ローマ人への手紙3：23）

罪とは、神の基準に足りないことである。人類のために設定された神の最初の基準は、神の愛を信頼し、神の命令に従うことによって神への愛を示すことであった。それどころか、私たちは自分の感覚や推論に従うことを選択したために、神との関係が壊れてしまった。今日、人間の本能は神の命令の反対方向へと走る：神が正直であるようにと命じておられるのにも関わらず嘘をつき、それを隠そうとする。神が満たされていなさいと命じておられるのにも関わらず、嫉妬し、羨み、過度に金銭を消費する。神が互いに愛し合いなさいと命じておられるのにも関わらず、嫌悪し、憎しみ、虐待し、裏切る。忍耐強くいなければならないと命じておられるのにも関わらず、怒り、怨み、最終的には殺人を犯す。神が忠実でありなさいと命じておられるのにも関わらず、人々を失望させ、約束を破る。罪とは、あなたの人生のあらゆる領域において、神の基準に足りないことである。神様の深い愛に感謝し、神を最優先に愛し、唯一の神を礼拝するように命じておられるのにも関わらず、心の中に偶像を置くことである。ギリシャ語で罪という言葉は「しるしを逃す」と表現する。弓矢を放つときに、常に的を外す様な状態である。

罪は、神から私たちを遠ざける。神は、ご性質によって聖く完全なお方であるので、罪は神の本質に反する。したがって、人類の罪の問題を見過ごされたり、無視されることは出来ない。

ただ、あなたがたの不義があなたがたと、あなたがたの神との間を隔てたのだ。またあなたがたの罪が主の顔をおおったために、お聞きにならないのだ。(イザヤ書59:2)

罪は常に神との関係において混乱を引き起こす。神と私たちの間に距離を生じさせる。それでも、神は愛であられるので、常に私たちの罪が処理されるために解決策を備えようと動いて来られた。神は、常に人類が神へと帰することが出来る様に架け橋を備えて下さる。罪の問題を克服するための架け橋である。

私たちの罪の問題に対する神の最初の解決策は、私たちが神ご自身と和解させることであつた。イエス様が私たちの罪のための代価を支払って下さったので、今、私たちには神と和解することが可能である。和解するという事は、ある期間、神からの隔たり(分離)にあつた状態から関係が修復されるということである。自分の罪のためにイエス様が死んで下さったことを受け入れるとき、その瞬間に、神との和解が可能となり、神との関係を取り戻すことが出来る。その先は罪が赦された者となり、神の子とされるのです。神との関係はその先安全である。

しかし、まだ問題が残る。神との関係が回復されても、完全な人間となるわけでは無い。罪は赦されても、完全となるわけでは無い。私たちは神の子とされるが、引き続き失敗し、神の栄光に足りない行いを繰り返す。

神の子とされてから継続する罪は、神との交わりを壊してしまう。交わりは関係とは異なる。前にも言いましたが、神との関係は、イエス・キリストを救い主として受け入れる瞬間に始まる。我が子との関係同様である。我が家に子供が誕生した瞬間、彼らは私の息子となり、娘となる。たとえ彼らが失敗を犯しても、その関係から逃れることは出来ない。彼らが何をしようと、私の息子、または娘であることに変わりはない。

神との関係は安全で永遠である。新しく生まれた瞬間から永遠に神の家族となる。

しかし、私たちが罪を犯すとき、神との交わりは変わる。我が子も悪い行いをする事によって、私との交わりを壊すことが可能である。子どもたちは、私との交わりや親密さや距離を失うことがあり得る。神の子となった後に罪を犯すとき、神との交わりの内においても同じことが起こり得る。神は子を見捨てられることは無い。神は引き続き、その関係に忠実でいて下さる。しかし、私たちの罪は神との交わりを壊し、神との交わりが壊れたとき、私たちはどこへも進むことが出来なくなる。霊的成長は停止してしまう。クリスチャンにとって、罪は神との交わりを壊してしまうので、罪について神に正直に向き合い、どうすれば神との交わりを回復することが出来るかを知る必要がある。

神による二つ目の解決策は罪の告白である。告白とは、神の御前に罪を犯したことを認めることである。単純なステップである。新約聖書の中で用いられているギリシャ語では文字通り「同意する」である。罪の告白をするとき、悪いことをしたという事実に対し神に同意することになる。私たちの内に住んで下さり、罪を悟らせようと働いて下さっている聖霊様(神)に「同意します」と宣言している。罪の告白は、神との交わりを修復すると神が仰っている。ですから、霊的生活の中で罪の告白をすることは、とても重要である。たとえ神の子とされていても、もし、罪の告白という特権を用いることに怠るなら、神から離れた状態を保つことになる。しかし、罪の告白を取り入れるとき、神との親密な交わりを維持することが出来る。

罪の告白は重要不可欠である。罪の告白の詩篇には、その方法が記されている。神への罪の告白のための導きを必要とするときに参照するための詩篇の箇所であり、神がそこに記して下さっている。それら8篇全ての詩篇(6, 25, 32, 38,

51, 102, 130, 143) をじっくりと読まれることをお勧めする。真の告白がどの様なものであるかを理解することが出来るでしょう。

中でも詩篇 32 篇は、特異な告白の詩篇である。ここはダビデの罪の時代に記されたものではない。その後、告白の技法における教訓的な詩篇として書かれた。この告白の霊的实践に何が関係しているかを理解するための6つの教訓が含まれている。

告白の技法における6つの教訓—詩篇32篇

第一の教訓：

自分の罪について欺くことをやめる必要がある

「そのとががゆるされ、その罪がおおい消される者はさいわいである。主によって不義を負わされず、その霊に偽りのない人はさいわいである。」(詩篇32:1, 2)

「祝福された」(幸いな、幸せな)人とは、罪の告白を通して解放を体験する人である！しかし、この祝福を体験することを妨げるものは何でしょうか？最後の箇所が重要である：「その霊に偽りの無い人は幸いである。」もし、あなたの霊に偽りがあるとき、あなたは自分に嘘をついていることになる。自分に問題が無い、自分の罪は重大では無いと説得しようとしている。それこそが罪の告白を妨げる最大の唯一の障害である：自己欺瞞。私たちの罪(失敗)を最小化し、合理化し、否定している。あなたの霊に偽りがある限り、神の御前に完全に罪の告白をしたことにはならない。真に祝福された人とは、自己欺瞞を止め、特定の罪の問題について神に正直になれる人である。

あなたは人生における罪の問題の重要性についての自己欺瞞の灰めかしを保有しておられませんか？その問題を最小化

し、合理化し、否定しておられませんか？心を静めて、聖霊様が、あなたに明らかにされようとしておられる事柄を尋ねてみましょう。気づかされた事柄を具体的に書き記しましょう。

第二の教訓：

罪について沈黙を保つために自制した罰

「わたしが自分の罪を言いあらわさなかった時は、ひねもす苦しきうめいたので、わたしの骨はふるび衰えた。」(詩篇32:3)

罪を犯したのに沈黙を保つことも罪の最小化である。実際、それは痛みを確実に最大限にする。ダビデは、自身の罪の日夜による影響について語っている。ダビデは神の裁きの御手が重たくのしかかるのを感じた。罪悪感を抑えることはひどい戦略である。有名な精神科医であるカール・メニンガー博士が次のように言った：「精神病院の患者に罪が許されていると説得することが出来れば、75パーセントの患者は翌日に退院することが出来るであろう。」罪悪感は、内部から食い荒らし衰弱させる病気である。治療法があるにも関わらず、悲しいかな大勢の人が重たい罪悪感を背負いながら生きている。もし、自分の罪を告白するなら、神はその重荷を取り除いて下さるお方である。

悲しみや重圧感のすべてが告白されていない罪によるものとは限らないが、それらの憂うつな感情が隠された罪悪感と恥に根ざしている場合がある。詩篇32篇でダビデが描写した様な霊に重圧が感じられるときは、神に尋ねましょう：「あなたが私に気付かせようとしておられる罪があるでしょうか？」後ろ向きな感情は、私たちに何かの間違っているということを知らせるためのダッシュボードの警告灯である場合がある。それらの否定的な感情を無視してはならない。それらの感情が何を教えようとしているのか識別を求めましょう。

罪を告白し、神の赦しと癒しに預かるために呼びかけておられる可能性がある！

第三の教訓：主への正直な告白は 瞬時に私たちに霊の清めをもたらす

「わたしは自分の罪をあなたに知らせ、自分の不義を隠さなかった。わたしは言った、「わたしのとがを主に告白しよう」と。その時あなたはわたしの犯した罪をゆるされた。」
(詩篇 32 : 5)

私は告白します・・・お赦してください。そんな単純なことである。苦行ではない。悪行の分、善い行いで償う必要もない。そのような単純なことで赦しが得られるということが信じられるようになるまでに苦闘するが、実際、それだけのことである。神様がそれ程単純に備えて下さっていることをなぜ私たちは複雑化してしまうのでしょうか？神が無償にして下さったものをなぜ高価にしようとするのでしょうか？告白する。その結果、神が赦して下さい。ただそれだけのことである。ですから、それ以上難しく考えないことです。

罪の告白が直ちに赦しをもたらすことを信じておられるでしょうか？それとも、もっと複雑であるに「違いない」と確信しておられるでしょうか？それ程単純な罪の告白のからくりを確信するために苦闘しておられるならば、なぜかと自問してみてください。罪の告白は、より複雑であり、より関与を要し、より犠牲を払わなければならないと思わせているものは何でしょうか。霊的告白の技法は詩篇 32 篇が教えている技法よりも複雑であると確信する限り、その技法を一貫して用いることは不可能である。

第四の教訓：罪の告白は 赦しと神からの助けをもたらす

「このゆえに、すべて神を敬う者はあなたに祈る。大水の押し寄せる悩みの時にもその身に及ぶことはない。」あなたはわたしの隠れ場であって、わたしを守って悩みを免れさせ、救をもってわたしを囲まれる。(詩篇 32 : 6、7)

罪の告白がもたらすもう一つの利益がある：神様は、陥った混乱からあなたを救うために動いて下さる！あなたは(ダビデの様に)他の人との関係の内に混乱状態に置かれているかもしれないが、神はその混乱を正すために働いて下さる。経済的な失敗を犯してしまったとしても、神がそれを立て直すために働いて下さる。結婚生活の中で混乱状態を招いてしまっていたとしても、罪の告白をするなら、神の赦しを得るだけでなく、混乱を正すために神の助けを得ることが出来る。ダビデは、洪水の中から誰かが引き上げて下さるのを感じた。その誰かとは、ダビデが罪の告白をした神ご自身であった。その誰かが「隠れ家」となってくれた。その避難所となつて下さった誰かとは神ご自身であった。

第五の教訓：罪の告白は ナビゲーションシステムを再作動させる

「わたしはあなたを教え、あなたの行くべき道を示し、わたしの目をあなたにとめて、さとすであろう。あなたはさとりのない馬のようであってはならない。また驟馬のようであってはならない。彼らはくつわ、たづなをもっておさえられなければならない、あなたに従わないであろう。」(詩篇 32 : 8、9)

ここで、神に罪の告白をする人に対して、どの様に反応されるかについて語る。「わたしはあなたの進むべき道を教える。あなたの弁護をし、見守る。」。罪の告白によって神と

の交わりが修復されたので、神の導きが私たちの人生の中で再び有効となる。まるで、神が介入され、どこに向かって歩むべきかを見せて下さるために、ハンドル操作を取りもどされたかの如くである。告白出来ていない罪がある間は、知恵も無いのに自力で決断する頑固な馬である。

告白出来ていない罪は、私たちを「神によって導かれる人生」ではなく、「自力で導く人生」へと導く。もし、その状態を長く継続するとき、人生において神が望んでおられる場所から、非常に遠くかけ離れたところへ進んでしまう。長きにわたって、自力で人生を導いて来ておられないでしょうか？神に人生を支配していただき、導いていただくことを願っておられるでしょうか？今、告白出来ていない罪を告白し、再び神に運転席に座っていただく時ではないでしょうか？詩篇32篇で約束して下さっている通り、神は「御目をあなたに留めて」、個人的に教え、導いて下さる。

第六の教訓：罪の告白は 人生に神の喜びがもどる

悪しき者は悲しみが深い。しかし主に信頼する者はいつくしみで囲まれる。正しき者よ、主によって喜び樂しめ、すべて心の直き者よ、喜びの声を高くあげよ。(詩篇32:10, 11)

詩篇32篇は「赦しの祝福」と題するのが相応しいかもしれない。それは神との関係において、癒しを体験することがどれ程素晴らしいことであるかの宣言で始まり、また、それで終わる。その癒しは、神の尽きることのない愛の結果として起こる。そして、神の尽きることのない愛は、罪の告白によってアクセスされる。

神と短い直話を維持することについての最終的思考

罪の告白は、神との継続的な会話の中で定期的に行なう必要がある。いつでも、生活の中で自分の罪に気が付いたとき、直ちに神に向かい告白すべきである。そのことを「神と短い直話を維持する」と言う。定期的に、継続的に罪の告白をすることによって、罪が日常生活の中に蓄積することを防ぐことが出来る。新約聖書の著者たちは皆、繰り返し、罪の告白の単純さと告白の霊的実践の美しさについて記している。中でも使徒ヨハネの記述が気に入っている：

すべてキリストの教をとおり過ぎて、それにとどまらない者は、神を持っていないのである。その教にとどまっている者は、父を持ち、また御子をも持つ。(第一ヨハネ1:9)

上記の句の中に込められている神の素晴らしさと優しさにどうぞ気づいて下さい。もし、罪の告白をするなら(自覚している罪)、神はお赦し下さり、私たちを「あらゆる不義から」浄めて下さる。いつでも、あなたが時間を取り、正直に主のみ前に罪を告白するとき、神様は再出発のために過去の汚れをぬぐい取って下さる。この様にして、神の子とされる者たちは、「壊れていながらも祝福される」のである。私たちは、愛して下さる父なる神の驚くばかりの恵みを常時アクセスする赦された罪人である。罪の告白を日々の神との会話の内に取り入れましょう。神に人生を支配していただくとき、どれ程日常生活が円滑に運ばれる様になるかを身をもって体験され、驚かれるに違いありません！